

豊丘村長 下平 喜隆 殿

平成23年度 豊丘村行政評価委員会 意見書

豊丘村の平成22年度決算に基づく行政運営や施策の進捗状況等に関して、豊丘村行政評価委員会において審議した結果、別紙のとおり進捗評価並びに施策の方向性の評価を行い、併せて施策に対する意見等が出されましたので、予算編成や企画立案等、行政執行に可能な限り反映してください。

なお、当委員会から出された意見に対し、委員会の場で村より返答があった内容に関しても、必要なものについては記載してあります。

平成23年12月26日

豊丘村行政評価委員会

委員長 福澤 章

副委員長	原 道弘
委員	松下 亨
委員	片桐 義憲
委員	原 健治
委員	三石 勝雄
委員	壬生 力
委員	小石峯 保
委員	竹村 元志
委員	片桐 力
委員	菅沼 和明
委員	昼神 活由
委員	大塚 祺知三

平成23年度 豊丘村行政評価委員会 意見書

【進捗評価】 A…順調、B…やや進展、C…変化
 【今後の施策の方向性】 A…向上、B…維持、C…減少

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	委員会評価			
						担当課評価	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
総務課	企画財政係	1	土地利用計画	○昨年度に土地利用図が見難いとの指摘をされていたが、改良は行われたか。	次回の振興計画策定の際に見直しを行う予定である。	B	B	A	B
				○豊丘村では許可にならないようなところでも、他市町村だと許可が下りているところがある。そこから住宅地が拡大していくこともある。	河野では、今後大規模な農地転用の必要が生じてくる。村の土地利用計画をはっきりさせてほしいということも、県からも言われている。それらを含め、今後検討していく必要がある。				
総務課	企画財政係	2	住民自らの地域づくりの推進	○自らつくる地域づくり事業の申請が年度当初に行われたが、それに対する可否の返答がない。	申請ではなく申請を予定している事業数を把握するための調査であった。今後は名称に注意して照会したい。	A	B	A	A
				○地区計画発表の後には何も行われていないが、事例発表や意見交換などの場があってもよいのではないか。	地区により取組みに差があり、一堂に開催するのは難しい。				
				○地区計画があるので、地区の運営・計画の遂行がやりやすくなった。					
				○区や自治会での懇談会は、積極的に行って是非成果をあげて貰いたい。声を掛けられるのを待っているのではなく、こちらから出かけていくくらいの気概で臨んでほしい。					
教育委員会	教育委員会	3	男女共同参画社会の推進	○成果指標について、議会での女性議員占有率等の明確な数字を示したほうが判りやすいのではないか。		B	C	A	B
				○伴野区でも女性の理事を立てようと考えているが、役員作業等で危険なものも多く反対意見もある。	根本的な考え方についての意識改革が必要であり、そのためのセミナーに是非参画していただきたい。				
				○河野区では区会議員とは別に女性役員を配置したいと考えている。状況は少しずつ変わり始めていると感じられる。一気に変わるものではないので、地道に推進していくしかない。					
				○村の施策では、パンフ配布や講演会だけなので、女性自身が行動に移せるような事業を行ってほしい。					
				○さんかくセミナーは、事務事業評価ではCとされているが、これは参加者が少ないことに因るものか。セミナー自体は有効であったと思われるがどうか。	今回の講師はワークショップを中心に進行されるので、多くの意見がいただけたりする。参加者が少ないのは時期的な要因もあったものと考えられる。				
				○村民の意識は昔と比べてどう変化しているか。昔ほど男性中心の社会ということはないと思われるが、偏見や差別を持たない意識を作るというのが共同参画の意義だと思う。	そのためのセミナーを開催している。				
				○社会のありかたが変わっても、女性の側の意識が積極的に社会に交わっていくことが少ないように思われる。					
				○女性が組織に入ってくると、組織自体が活性化する。組織側の門戸は開かれているので、女性側の意識の改革が必要ではないか。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
住民課	福祉係	4	高齢者・障害者が活躍する社会の形成	○シルバー人材センターへの補助の内訳は。	負担金(運営経費)として支払っている。負担金は人口割と均等割で算出されている。	B	C	B	B
				○重度障害者受入施設への補助は、豊丘の人がいなくなったら支出はなくなるのか。	その通り。豊丘の人が入所しているので補助を行っている。				
				○高齢者・障害者が活躍する社会の形成という表題について、社会教育にも関わってくると思われるので、他の課とも協力が必要ではないか。連携を取って行ってほしい。					
				○高齢者クラブ等の組織率は減ってきているのか。	組織の数としては減少してきている。役員の負担が大きく、役員をやる人がいないため休止する団体がある。参加率は変わらない。				
住民課	福祉係	5	ボランティア・NPO活動の振興	○村内のボランティアの会はどんな現状か。	10団体、150人程度が所属。ボランティアの会への補助はないが、活動保険の保険料は社協にお願いしている。	A	B	A	B
				○ボランティアの会の活動費は。	材料費等の実費は村が負担し社協経由で補助している。				
				○ボランティアセンターの今後は。	現在は社協の嘱託職員として配置し専任職員という身分だが、今後はコーディネイターとして活動してもらおう。				
				○ボランティアの意向調査を行ったことはあるか。	社協が実施、回答は17人。				
				○ボランティアの活動内容については社協が取り仕切っていくのか。	社協の中にボランティア事業の委員会を作り、村の職員も一緒に検討していく。				
				○他町村の状況はどうか。	喬木村はない。高森町は活動している。松川町はボランティア団体が20~30あり、社協が取りまとめている。				
				○村にはNPO法人が2つあるが、それにはこの項目で触れないのか。	振興計画作成時にはNPOを含んでいたが、現在存在しているNPO法人は福祉とは異なるため含めていない。				
教育委員会	教育委員会	6	国際性豊かな地域づくり	○国際性豊かな地域づくりという表題だが、内容が学校教育に終始している。住民課とも連携をとって、共に進めていくべき。	関係課を含めて、再度審議を行う。 【後日、企画財政係より行政の国際化に関して提出】	A	B	B	B
				○指標の中に、公民館の英会話クラブの人数等を挙げても良いと思われる。					
				○村内には中国から来た方が多いので、料理教室等を開いてはどうか。続けていけるやり方を研究してほしい。					
				○外国人からの相談事については役場で把握しているか。	相談事等は役場には寄せられていない。				
				○外国語の対応をする職員等はおいていないのか。	役場にはいない。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性		
								成果	コスト	
教育委員会	教育委員会	6	国際性豊かな地域づくり	○職場が労働者として雇用している外国人については、職場がフォローをしているので問題ないと思われる。日本各地では、同郷の外国人が集まって自分たちのルールで生活をし、近隣の住環境を乱している事例も発生している。そのような事態にならないように気を付けてほしい。						
教育委員会	教育委員会	7	人権教育の推進	○人権の範囲が広すぎてつかみづらい。		B	A	A	B	
				○学校でも人権教育を行っているのか。	全ての範囲に含まれている。					
				○住民課とも重なる部分があり、計画の立て方に問題がある。	住民課の人権擁護員と、社会教育での人権教育は違うものである。社会教育では、幅広く多くの人に人権について学んでもらう機会をつくる場と考える。					
				○今年度(H23)に中学校で人権教育の研究授業を行い、成果を上げていると感じられる。						
教育委員会	教育委員会	8	社会教育の充実	○成果指標の項目について、再検討すべきである。	検討していく。	A	A	A	A	
				○指標に挙げるべきものとして、公民館のグループ活動等の状況を書くべきではないか。						
				○図書館の位置づけ、利用者の内訳について。利用者の傾向の把握は、図書館の在り方を方向付けるためにも必要なことではないか。						貸出冊数54千冊、利用者12千人、移動図書館を村内3ヶ所でおこなっている。一般よりも子ども中心で運営されている。
				○子供たちに学習の場を提供するというスタンスでも良いのではないか。今の施設は色々中途半端ではないか。						
				○図書館の蔵書数はどうなっているか。図書館事業費の2千万円は図書購入に充てられているのか。						登録は48千冊。年間の図書購入費はおよそ3百万円、図書数で3300冊程度。事業費は、H22年は度図書館の貸し出しシステム導入のため通常より1千万円多くなっている。
				○生活リズム改善村民運動が教育関係者のみに限定されているのではないか。村民運動と銘打つのであれば、全村民が参加できるように取り組むべき。						子どもから家庭～地域へ広めていきたいと考えている。
				○生活リズム改善村民運動の村民へのアピールはどうか。朝早くで出なければならない仕事の人などは参加できないのではないか。						豊丘の子どもたちの健全な育成のために、村民で一丸となって取り組みましょう、という運動である。村民全員が行わなければならないということではない。生活リズムを正しく保たなければならない子供たちの生活リズムを守ろうというのが主旨となる。下伊那地域の統計でも、豊丘村は早寝・早起き・朝ごはんができています。【後日資料配布】
				○福祉センターの利用者の推移は。						H22年度は11千人。
		9		○目的に「学校施設の計画的な整備・改修」とあるが、現状では既に終了したと書かれているが、これはどういうことか。	給食センターの施設改修が残っているため。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
教育委員会	教育委員会	9	学校教育の充実	○モンスターペアレンツと言われるような、厳しい要求はあるか。	ここ最近では減少している。ランドセル購入補助について、自分たちの好みで選んだものについて補助を希望されている声もあるが、校章を入れる関係で難しい。	A	A	A	B
				○不登校に関する問題について現状はどうなっているか。	良好。小中学校ともに0人。35人に1人は不登校がいていられるが、豊丘村ではそういったことはない。不登校は30日以上欠席と定義されているが、きめ細かい指導、先生方の家庭訪問、相談員の村費での配置などで対応している。				
				○学級費等の徴収は、現在どのように行っているか。	現在は口座振替。滞納となるケースもあるが、年度内に処理をしている。困窮家庭については就学援助費で支援している、年額200万円。				
				○学力・体力のレベル低下に対する対策は行っているか。	体力については、小学校は良好だが、中学女子で平均以下となっている。運動イベント等を開き体力増強に努めている。昨年度は、地震の影響で体力テストがなかったため現状のレベルは不明。				
				○先生方の業務の多忙さに配慮いただきたい。	生徒指導量の増加による多忙さ、組合等の学外での活動、最近では家庭教育で賄う部分も学校に任されている面もある。豊丘の小中学校は、児童・生徒数が適正なため何とかなっている面もある。				
				○部活動にも指導いただいております、中学校の先生方には頭が下がる思いである。	仕事量が膨大であり、ノー残業デー等を設定しても、残業してでもやらないと仕事が回らない。部活動については、早急に外部指導者を各部で探し、教員の負担を軽くしていきたい。				
				○部活動が学校教育の延長上にあるという意識がある。先生方が多忙であるという現状を踏まえ、住民の意識が、部活動は社会教育の一環であるという認識を持つようにすべき。					
				○保護者等でも話し合っ指導者を出すようにしているがなかなか適した人材がいない。一般のボランティア指導員の募集を、もっと声高に行っていくべき。					
○中学校の部活動でも保護者会を組織し指導員をだしているが、本職ではないためなかなか難しい。									
住民課	福祉係	10	青少年の健全育成	○警察ボランティアとは。	飯田署から依頼を受け夜間の見回り等を行うボランティア。村内で3名いる。	B	C	A	B
				○公園や公共施設が被害を受けており、地区の人々が協力して見守り健全育成に努めていなくてはならない。					
				○青少年健全育成協議会の活動は。	年1回会議を開いているが、有事の際には複数回開催することもある。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
住民課	福祉係	10	青少年の健全育成	○協議会の構成は。	村長を会長とし、各団体の長で構成されている。				
				○各々の協議会で其々の業務を担当していくのは当然だが、他の協議会・団体等とも協力して問題を解決していくべき。					
				○施策として挙げていくのであれば、各担当がバラバラにやるのではなくまとめて施策にとりこんでいくべき。					
教育委員会	教育委員会	11	スポーツの振興	○改修したテニスコートの利用者はどうか。	村民のクラブや個人など利用率は高い。村外からの問い合わせも増えている。土日の利用率が高い。スポーツ館のテニス利用者はまた別のグループなので、そちらの利用者に変化はない。	A	B	A	B
				○中学生からの評判はどうか。	学校から距離があるため毎回は使えない。				
				○通勤で近くを通るがよく利用されている。ナイター運営もされているようだが、電気料金もきちんと請求してほしい。	ナイターにも対応しており、夜間の使用料にも反映させている。				
					ロコミで利用が広がっており、飯田市のテニスコートが改装中ということもあり利用者は増加している。現場は冬季間日影になることがあり心配されているが、日影を作る木を伐採するなど対策をしており経過観察中である。				
				○パターゴルフ場はどうか。	土地の管理は教育委員会だが、イノシン等にコートを荒らされており現状使用できない状況。建物を含めた利活用については村全体で考えている段階である。				
				○事務事業にある体育イベントとはどのようなものか。	ゲートボール大会、夜間ソフト、分館対抗球技大会等を指す。村民からの要望があれば対応したい。				
				○体育イベントが教育委員会と公民館とに分かれているのは、どのようなことがあるのか。	教育委員会体育イベントは社会体育の関係、公民館体育イベントは公民館体育部の関係。実施する主体が異なる。				
				○24Hソフトはどこが行っているか。またマレットゴルフはどうか。	24Hソフトは体育協会を中心に実行委員会を立ち上げ運営している。マレットゴルフは、施設は教育委員会管理だが団体は公民館グループである。体育協会はより専門的な運動に特化しているが、社会体育ではスポーツ人口の底辺拡大を目指しニュースポーツ等を取り入れ、地域の連帯感を高める目的で実施されている。				
				○指標として、村民の中でのスポーツ愛好者の状況等を調べる必要がある。困難ではあると思うが、スポーツ進行のためにはそういう努力もしてほしい。					
				○体育施設の開放について、学校のプール解放は村外の小学生も利用して良いのか。	学校の管理するものであるため、教育委員会としてはどうぞとしか言えない。				
				○学校のプールについて、以前は一般開放していたが現在していないのは何故か。	利用者がいなかったため。近隣に施設の整ったプールもあるため、そちらを利用される人が多い。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
教育委員会	教育委員会	12	文化財保護と地域文化の振興	○歴史的文化財とは村指定の文化財ということか。	その通り。	B	B	B	B
				○松尾多勢子の居宅について村としての扱いは。	個人所有の現住建造物のため文化財指定も難しい。外から見ただけ。				
				○昔ながらの住宅というのは豊丘村には多いのではないか。早期に保存しないとリフォーム等で改装されてしまうのではないか。	飯田下伊那地域で、養蚕住宅、本棟住宅等の研究が進められている。文化財指定については、現在人が住んでいる建物については難しい。				
				○地域文化とは何か。	獅子舞、お囃子等のお祭文化の継承等を考えている。				
				○地区にあるお堂の補修もここで対応するのか。	その通り。21年度は、国の補助金を充てて佐原区のお堂の補修を行った。村指定文化財については村の補助もある。				
				○豊丘には学芸員がいないが、文化財の判断等はどのように行うのか。	専門的意見については、飯田美博から学芸員を招いて対応する。				
				○22年度に行われた発掘の成果はどうであったか。	南小学校横、旧JAスタンドの林里遺跡の発掘では壺が発掘、復元された。現在報告書を作成中。				
				○田村交差点付近の発掘調査ではどうであったか。	特筆すべきものは発掘されなかった。				
総務課	企画財政係	13	コミュニティの推進	○隣組未加入者については民間の賃貸住宅への入居者への加入促進を村でも取り組みを。	空き家入居については村が仲介しているため加入の働き掛けはできるが、民間のアパート等では困難であるとおもわれる。	A	B	A	A
				○自治会、隣組での活動への援助はあるのか。	自らつくる地域づくり事業交付金の対象となるので、事業的なものは申請してほしい。				
				○自治会長を対象とした、村の方向性を示す等の会議を開催したりする予定はあるか。	今は考えていない。				
産業建設課	林務係	14	豊かな自然環境の保全	○小規模竹林整備の状況は。	区・自治会で計6箇所施工済又は施行予定。	A	A	A	A
				○森林づくり支援金事業の目標値が減少しているのは。	補助金の枠が決まってしまう。面積は小さいが他の目的に利用できる。				
				○セミナーハウス北の梅畑の費用負担は。	セミナーハウスの管理は総務課が行っている。梅畑は整備事業を林務が行い、その後は総務でシルバー人材センターに依頼し管理を行っている。				
				○野生動物の増加により自然破壊が進んでいる。笹が枯死して地耐力の低下を招いている。獣害対策について一層の努力をしてほしい。					
				○リニアに関して、土捨て場や中国人の山の買い占め等に注意してもらいたい。					
				○水資源の確保のためにも山の保全に努められたい。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
産業建設課	林務係	14	豊かな自然環境の保全	○竹林整備にもっと力を入れてほしい。村の事業として取り扱ってもらい、業者を頼むなど拡大利用を願う。					
				○保安林に指定されていれば水源管理、土砂崩落、森林整備を県が行ってくれる。伴野区ではこれを利用している。各地区でも対象となる保安林を探してみてもどうか。					
				○佐原区では「長男会」という組織が地元があり、そこが森林整備作業を行っている。					
				○中学校北側が保安林になっているが、木が混みすぎている。整備できないか。	杉・桧・雑木が対象のため、竹は事業の対象外となってしまう。また、H21年度の事業に関しては、地権者の了解が得られなかったため手が入れられなかったという経緯もある。				
環境課	環境係	15	水環境の保全	○産廃処分場の下流の状況はどうか。	前年に比べよくなっている。	A	B	A	B
				○事業費は何に使われるものか。	検査費用である。何か突発的な事故等があれば増加することもある。				
				○産廃処分場の2ヶ所はどこか。	掘立と西部の2ヶ所。				
				○臭気等の大気環境は長年に渡り問題になっているので、次回の計画には是非載せてもらい対策をお願いしたい。					
				○寺沢川の河床が汚れているが、水質のデータはどうなっているか。	後ほど配布する。【別紙資料配布】				
				○分析業者の選定はどのように行われているか。	随契・入札の選定基準があるので、それに従って業者の選定を行っている。飯田地区では対応できる検査業者が中部公衆医学研究所しかないということもある。				
総務課	企画財政係	16	良好な景観の形成	○空き家・廃屋の現状調査は行っているか。	地区との共同事業のため、地区申請により把握している。	B	B	A	B
				○村が成果を発表するためにも村で実態調査を行うべき。					
				○空き家改修事業のコンセプトは。	本題は定住人口増加。加えて、廃屋にしないための対策として行っている。				
				○小屋が廃屋となっているものについての対応は。	住宅であれば補助制度があるが、工場や納屋等の小屋については現状制度はない。				
				○空き家が増えないようにするための教育を村民に対して行い、村が強く訴えるようにする。					
				○村外に転出した人達は、空き家を財産としては認識しているが景観保全については意識していない。これらの人々に伝えるようにする。	毎年発送している固定資産税の通知に同封する。				
		17		○監視員・指導員の効果はどうか。	パトロールを行っているが不法投棄は変わらずある。北の沢の埋立指導はシルバーに依頼しているが、分別の状況は改善している。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
環境課	環境係	17	一般廃棄物処理対策	○監視カメラの効果はどうか。	設置した箇所については不法投棄は減っているように思われる。	A	B	A	B
				○不法投棄については施策の問題点として挙げるべき。					
				○福祉収集とはなにか。	安否確認を兼ね、独居老人等のゴミについて分別や収集を行う事業。対象者の絞り込みなど、住民課と調整している。				
				○生ゴミ処理機の補助はあるのか。	取得費の1/3以内、上限3万円を助成。				
				○村として生ゴミ処理機を設置する予定はないか。松川町では導入している。生ゴミを自己処理することで燃やすごみの減量にもなる。ぜひ検討を。	今のところ検討していない。				
				○指標にあるゴミの再資源化率の70%とはどのような数字か。	確認して次回回答する。【別紙資料配布】				
環境課	環境係	18	産業廃棄物処理対策	○環境保全条例について進捗は。	6月議会上程予定だったが、現在見直しのため委員会で再度検討中。	B	B	A	B
				○この施策に関しては事業費はゼロでよいか。	県の事業のため村の支出はない。				
				○吉川建設の産廃処分場の情報は地元によく公開してほしい。					
				○タナダ工業も処分場を設置しているが、年2回地元へ報告がある。					
産業建設課	土木係	19	安全な村づくり	○「安全な村づくり」となっているのに治水(用排水路)に終始しているのはどうか。	今後、振興計画を策定するにあたり表現に留意する。	B	A	A	B
				○河川について、一貫した負担金で対応してもらいたい。自治会をまたいで流れているものなので、申請した自治会だけが負担金を払うのはおかしい。					
				○一級河川の排土はどうなっているか。	一級河川については県の事業となる。県に対しては毎年写真を添付し申請しているが、施工については県の判断となる。また、豊丘村は川の本数も多く、延長もあるため、なかなか一気に進めることはできない。				
				○田村大井の工事で水回しをしたヒューム管が破損したまま、水を垂れ流している現場がある。早急に対応してもらいたい。					
総務課	総務係	20	消防組織の整備と強化	○団法被を配っているがまだ一度も出てきたことのない団員について、本部では把握しているか。	各分団では把握している。				
				○本部がそれらの団員について把握していないのはよろしくない。来年は不参加の団員数について報告してほしい。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
総務課	総務係	20	消防組織の整備と強化	○消防施設について、伴野原詰所は整備済みであるか。小園の詰所が完成したら、伴野原は廃止されるという話もある。	伴野原は団員が不在のため現在休止している。団員が確保できれば復活したい。伴野原の施設については、消防委員会でも廃止の話はでていない。	A	B	A	B
				○ゴミの焼却について、団員の指導がまちまちである。	団員への通達を徹底する。				
				○団らん券の使用率はどの程度か。	年々利用者が増え、使用率も上がっている。				
総務課	総務係	21	防災対策の充実	○村から水や土のう袋の配布があり助かっている。		A	B	A	A
				○防災計画はどの程度村民に認知されていると考えるか。	7割程度と考える。更に向上するよう努める。				
				○地域の要援護者の把握はどうなっているか。	要援護者のリストを自治会に配布し把握してもらっている。				
				○緊急避難施設の鍵を区長に預けるなど、村が積極的に取り組んでいる。					
				○同報防災無線のデジタル化を行うことのメリットは。	現在の同報無線の機器が古くなったため、交換する必要がある。デジタル化をおこなうと通信の双方向性がもてる。				
				○今後の防災訓練はもっと実践的な救出方法等を行う必要があるのでは。消防団のみならず、消防OBやお年寄りにも参加してもらえるのが良いのではないか。					
				○豊丘村での避難勧告や避難指示の基準は。	河川監視システムがあり、自主判断してもらうのが第一。防災計画等で各地区で判断基準を共有してもらうなど、各地区で考えていってもらう必要がある。				
産業建設課	土木係	22	道路交通網の整備	○天竜川の架橋の現状はどうか。	北部地区の道路問題研究会において、件の天竜川架橋と宮ヶ瀬橋の優先順位について検討中。	B	A	A	A
				○交付税・補助金の今後はどうか。	これまでは経済対策を目的に充当できていたが、今後は不明。また、震災復興等に割かれることもあり、急激な減額はなくても増額されることはほぼないと考えている。				
				○日影地解消事業の事業費に伐採費用は含まれているのか。	全額が伐採に係る委託料である。塩カル散布等の凍結対策は、別事業として予算化されている。				
				○道路の舗装が塩カルの散布で傷んでしまうので対策を考えてほしい。	舗装修繕で申請を上げてほしい。ただし、予算の都合と、緊急度・危険度・必要性から判断して実施順を決めているため、確実にできるとは言い切れない。				
				○山間地の住宅に入っていく道路の拡幅はできないのか。	地元の要望に則して対応している。ただし、一軒の家のために長距離を改良するのを地元が躊躇うこともあり、緊急車両が通行できるように、またよりローコストで施行できるように、工法を検討しながらやっていく。				
				○「天竜川架橋」だと、どこに橋を架けるのか具体的にわからない。計画も進行しており、仮称でもいいので、誰にでも分かるような橋の名前を決めていく頃ではないか。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
産業建設課	土木係	22	道路交通網の整備	○今後の方向性をBとした理由はなにか。架橋は今後ますます力を入れていく事項であり、個人的にはAでよい考える。	道路維持管理と架橋の問題が含まれているが、総合的に考えると維持に分野が大きいのではないかと考えた。Aに近いB、ということで判断している。				
				○地区から提出される要望の総量は分かるか。	年度や地区により要望のばらつきがあり、実現性の低いものもあるため予算化するにも出しづらい、という現状である。大凡、要望の7～8割は実施できていると思われる。				
				○伴野区では、自治会でも選定委員会を開き役員判断で要望の洗い直しを行っている。そのため、緊急性・必要性の高いものを村に要望しているため採択率が高い。					
総務課	総務係	23	公共交通機関の確保と充実	○高校生の市田駅への乗り入れはどうか。	市田駅の電車のダイヤは7:20と7:50で、スクールバスとの兼ね合いで実現は難しい。現状は、厚生病院までバスで行きそこから駅までは徒歩ということになるが、利用者数は少ない。駅までバスを出しても乗ってくれない、という実験結果もある。	A	C	B	B
				○高校生のためのバス運行については、ニーズが高いこともあり検討してほしい。	部活動があったり時間帯が一定ではなかったりと、高校生の利用率は高くない。バスを出しても無駄になってしまう。				
				○豊丘村には福祉タクシーもあるので、そちらを利用してもらうこともある。					
				○バスの運行は外部に委託しているのか。バスのサイズが大きすぎではないか。	バスの運行は外部委託である。バスのサイズは、スクールバスとして利用するため、最大の乗客数で用意する必要がある。				
				○飯田広域で、高校生になったら原付の免許を取れるように、地域の認識を広げてもらえるよう話し合ってはどうか。					
総務課	企画財政係	24	住宅対策	○村営住宅等は人口増に効果があったか。	村全体としては減少だが、地区を限って言えば人口増に役立っている。	A	A	A	B
				○空き家対策も指標に含めるべきである。					
産業建設課	土木係	25	公園の整備	○なしっ子公園の桜にアメシロが発生したが、役場に言っても直ぐに対応してくれなかった。	なしっ子公園は伴野区の管理であり、その点については区長から謝罪と説明。今後は伴野区でも注意して見回りを行う。	B	B	B	B
				○遊具の点検はどうなっているか。	区では日常的な管理や小破修理を行い、遊具の点検・改修は村が主体で行っている。				
				○今年度は公園でのイタズラが悪質化しており、村に依頼して防犯カメラを設置してもらったりした。教育等の問題もあり、地域・学校で見守っていかなくてはならない。					
				○情報があれば、学校なり教育委員会なりに知らせてほしい。					
				○公園に時計を設置してもらいたいという要望がある。	H23年度で予算化されている。今後業者と打合せを行い、近いうちに設置できる見通し。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
産業建設課	振興係	26	消費者行政	○寄せられる相談の中で実際に被害を受けた人はいるのか。	被害を受けたために相談している人が殆どと思われる。金額としては、100万円の布団を購入した人が払えなくなってしまったというのが最高額かと思われる。家族が遠くにいるお年寄り等が狙われやすいが、お金のことなので地域で取り組むことも難しいと思われる。	B	C	A	B
				○消費生活センターとの連携はどうなっているか。	情報提供があるので必要に応じて広報を行っている。困難な事例は県の指導員の力を借りることもある。				
				○勉強会等は開催しているのか。商工会や公民館学習会は取り扱ったことがある。	村民を対象としたものはない。				
				○行政・公民館とも協力して取り組むべき。					
				○文字放送での注意喚起について、見る人に危機感を持たせるような表現とした方が良い。村内での被害件数を上げるなど。					
				○学校教育を通じて、とあるが実施されているのか。	学校のカリキュラムにどの程度含まれるかは不明。学校との協議は行っていない。				
				○放射能についても、是非学ぶ機会を設けてほしい。	風評被害を防ぐ目的で必要であると思われる。				
総務課	総務係	27	交通安全対策の充実	○見通しの悪い所について、どこが責任を持って進めるのか。	生垣については、原則地元対応でお願いしている。	B	B	B	B
				○伴野区では、支障木として区が所有者に了解を取った後伐採している。					
				○壬生沢では、道に飛び出した木は了解なく切っている。常に木の管理を行うよう所有者に周知するなど、そういう空気づくりをしている。					
				○交差点付近の舗装の色分けをもっと導入してはどうか。	事故多発箇所を優先して施工している。土木申請に上げてもらえれば対応する。				
				○安全協会が石灰で「止マレ」表示を行っているが、村との関係は。	要望箇所のとりまとめを村が行い、施工を安協に依頼している。表示が薄くなったところを補修する程度。				
総務課	総務係	28	防犯対策の充実	○地元で交換作業がしやすいように、街灯の高さを変えたりできないか。	街灯はその効用のため、ある程度の高さが必要となる。高所での作業は危険なため業者に依頼している。	A	D	A	D
				○街灯は来年度も同等数設置する予定であるか。数年前に設置した際は地元負担が大きかった。補助率を変える等、負担軽減について前向きな検討を。					
				○事務事業評価に掲載していない他の防犯対策は何かあるか。	メール配信システムを利用した不審者情報やクマ出没情報など。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
総務課	総務係	28	防犯対策の充実	○なしっ子公園が悪戯された時は移動式の監視カメラを一時的に設置してもらえた。今回、区民会館に被害が出たがカメラは設置してもらえなかった。公共施設の防犯対策として検討して然るべきではないか。	恐らくは。 およそ100万円。村はレンタルで行っている。ダミーのカメラもある。	A	B	A	B
				○村内の事件(軽犯罪)発生数について、今後増える傾向であるか。					
				○防犯カメラの値段は。ダミーでも設置すれば抑止効果になる。					
環境課	上下水道係	29	水道施設の整備と充実	○表流水の浄化の検討について進捗はどうか。	井戸の亜硝酸性窒素の濃度が上昇すれば本格的に検討することになるが、現時点ではそれほどでもないため未着手。	A	B	A	B
				○表流水の浄化について検討されていないのであれば、施策に文言を変えるべき。出来ないことを記載するのは問題がある。	郷土沢ダムの問題があったときに試算だけはおこなっている。				
				○昨年度は有収率の限界は85%という話であったが、今年度は90%とされているのはなぜか。	改修により改善がみられたため、もう少し上を目指せるようになったため設定した。				
				○上水道施設の整備を目指すのはなぜか。	簡易水道に対する補助金がなくなってしまうため、上水道に移行せざるを得ない。企業化が必要となるため、H28年までに資産の洗い出し等を行い整備する。				
				○5年は直ぐにきてしまうので、早急に方針を定めてもらいたい。	他の補助制度との関連も調べ、最も効率の良いものを利用できるように調整していく。				
				○管路台帳の整備とは。	現在埋設されている管類は40年前に地元が布設したものであるため、管の太さや埋設場所などが不明である。そのため、それらを示した詳細な台帳を整備する必要がある。資産価値や耐用年数も含めた把握を行う。				
				○全体的に見られる地図は整備されているのか。誰が見ても分かるものを整備してほしい。	村としては管の埋設位置が明確に分かるような地図を整備したいと考えている。				
				○古い管類については大体の位置しか把握できていないので、工事等で掘削した時などに調査して把握に努めてほしい。	レーダー等で地中の配管を調査することもできるが、ハイコストになってしまう。				
				○予算的・時間的な問題もあるが、今後井戸を続けていくか浄水場を建設するか、方針は明確になっているのか。	模索している最中である。				
				○コストの問題もある、具体的に方向を決めていく時期ではないのか。					
				○広域連合の中では、他町村と水を融通しあったりなどの協力体制は検討されているのか。	北部の中では検討されていない。				
○有事の際等に他町村から水の供給を受けられるような配管や協力態勢の確立も重要である。									

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
環境課	上下水道係	30	下水道施設の整備と充実	○成果指標の下水道汚水処理原価のうち維持管理費分について、どのような数字か。単価はm ³ /円で正しいか。	調査して次回回答する。【m ³ /円が正しい。口頭にて説明】	A	B	A	B
				○施策の課題にある財源の不足とはどのようなことか。	基金の取り崩しをしなければならない状況を示している。				
				○特環(国交省)と農集(農水省)について、国はまだ2つでやっていくのか。	会計検査でも、統合できるところは統合すべきであるとの指導があった。国の方でも柔軟性を持った運用を示しており、村としても検討していく。				
				○先行投資事業とは。	人口増対策の一環として、3戸以上の住宅地を造成する際に事前に下水管を布設する事業。				
				○施設管理費の将来的な見通しはあるか。	下水道公社等の専門機関に現状を調査してもらい計画的に改修を進めていく。H24-25年度は河野の防食工事を予定。緊急性の低いものは2・3年先を目途に対応する。				
				○経費の内訳は。公社への支払いはどうなっているか。	経費の大部分を占めるのは電気代、次に施設管理費。公社への支払いは、業務を依頼したときだけ発生する。				
				○施設の長期利用のためには家庭への指導も必要となるが、そのあたりの対応は。	広報等で毎月掲載している。悪質なものは少なくなっている。				
総務課	広報係	31	情報化の推進	○気象観測ポイントの増設をはやく行なってほしい。		A	A	A	B
				○端末の使用状況はどうなっているか。	アンケートを実施したところ回収率は4割、うち86%が使用できている状況。しかし、この通信システムを利用しているのは日本の中でも豊丘村だけになってしまっている。高森町ではIP電話に移行したが、豊丘では事業費が高額となるため改修を望む声は少ない。				
				○自主放送視聴率80%の根拠は。	23年の春に行った調査で、『毎日見る』20%、『時々みる』70%から推計した数値。				
				○これからは同報無線の充実など、災害時に役立つシステムにしてほしい。	デジタル同報システム導入については、総務係と協同で遂行する。				
				○インターネット、HP等新しい情報媒体を使った事業について載っていない。情報化に係るもの全てを盛り込んでこない、全体像がつかめない。タイトルの付け方や施策の在り方に問題があるのではないか。					
				○デジタルテレビの番組表を早めに更新してほしい。					
				○広報係の勤務形態はどうなっているか。	土日もシフトを組み、誰かしらが出勤するようにしている。				
総務課	広報係	32	CATVのデジタル化	事業完了					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
住民課	福祉係	33	地域福祉の向上	○結婚相談事業の成果は。	北部事務組合で行っている事業とは別に、村内でも10名のコーディネーターを依頼している。成果はまだない。	B	C	B	B
				○なかなか結婚したがる人がいないということか。	地域から世話焼きおじさん・おばさんがいなくなったこともあり、地域で心配した方がいいのでは、という意見もある。意識を育てることから始めているので、成果が上がるまでに時間がかかる。				
				○北部事務組合で行っている事業の現状は。	村内の登録者は男性18名、女性2名の計20名。				
				○施設の利用者数も指標として表示すべき。					
				○夜間の心配事相談を強調しているのはなぜか。	豊丘では平日夜の利用者が多いため。件数では年間10件、昼間行っているのと併せて15件程。他の人権相談窓口もあるためそちらを利用する人もいる。				
住民課	介護保険係	34	高齢者福祉と介護保険制度	○他市町村に比べ重症化率が高いという要因は判明しているのか。	急激に要介護度が上がる原因は脳卒中等の病気に因るものだが、他市町村と比較してなぜ多いのかは調査中である。	A	A	A	A
				○権利擁護事業とはなにか。	成年後見人制度等の認知症患者の財産・人権を守るための事業。				
				○小規模特養の動きの経過について。	建設研究委員会を立ち上げこれまで3度の会議を行った。その中で規模としては小規模特養とすることが話し合わせ、第5次事業計画に載せていく方向である。				
				○介護給付の内容について。また収入源について。	在宅介護、施設入居、村内施設、広域特養入居、老健入所サービス費等への給付金。収入源は介護保険料と国・県の補助金による。				
				○今後は介護予防や健康増進にも力を入れて取り組むべき。					
				○「おいでなんしょ会」について、自発的に行われるのであれば良いが、村が取り仕切って行うのはどうか。	「おいでなんしょ会」は社協が中心となってボランティアで行われている。村は材料費等の実費補助を行っている。				
				○小規模特養の経営について、どのような形態とする予定か。	現在ある特養のサテライト施設として考えている。営業主体は民間となる。				
住民課	福祉係	35	障害者福祉の充実	○認知症はどのような扱いになるのか。	65歳以上の場合は介護サービスになる。	B	B	A	B
				○傾向としては増加傾向にあるのか。	養護学校に通っている人が予備軍となる。健常者が途中からなる、ということはめったにない。				
				○障害福祉サービスの財源内訳について。	国50%、県25%、村25%。全額公金で賄っている。				
				○福祉職場の待遇はまだまだ低い、今後も理解と協力をお願いしたい。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会 進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
住民課	福祉係	36	子育て支援対策と児童・母子福祉の充実	○相談員の巡回はどのように行われるのか。	対個人で相談を受ける。定期的に行われるものと、要請により不定期で行われるものがある。基本は保育所だが、小学校からの要請により出向いた実績もある。相談員は飯田病院から1名来てもらっている。乳児健診の際は補助で更に1名。	A	A	A	A
				○子育てサロンの対象は。	保育園に通っていない未満児(3歳未満)				
					全体的にグレーゾーンの人が増えてきている。核家族化が進んでいる。				
				○児童クラブの増加率はどのような算式か。	全児童数に占める児童クラブ登録者数。利用者としては、神稲児童クラブが日平均35人、河野が30人。				
住民課	保健衛生係	37	健康づくりの充実	○受診率を成果指標に記載すべき。目標を持って取り組んでもらいたい。		A	B	A	A
				○うつへの取り組み状況はどうか。	9月がうつ・自殺予防月間となりCM等の広報活動を行ったり、村としては学習会等を開催するなどしている。				
				○うつ病の患者数は把握しているか。	軽微なものは相談等が持ち込まれない限りは把握は困難。ただし、若年の死亡原因では自殺はがんに次いで多い。				
				○がん検診実施率の把握。実態把握は難しいと思うが、何らかの対策を取って調査する努力をしてほしい。	対象人口と受診者は把握しているが、会社等の健康診断で受診する人も多く全体は把握しづらい。				
				○メタボに目が向いてしまい、がん検診に対して関心が薄くなっている。どちらもバランスよく受信できるよう啓蒙に取り組みでほしい。					
				○ゲートキーパーについては多くの人になってほしい。近隣でも、地区で健康づくり担当者を配置する等の動きがある。今後の施策として是非お願いしたい。					
				○病気への対応だけでなく、健康づくりへの取り組みも成果に盛り込んだ方がよい。					
住民課	保健衛生係	38	国民健康保険・老人医療対策	○退職国保の一人当たり医療費の目標値が22年度より高いのはなぜか。	対象者が180人ほど居るが、がん治療等の経費の高いものが発生すると医療費が一気に跳ね上がってしまう。22年度はこれらの要因がなかったため低く抑えることができたが、常に一定に抑えたいということから目標値を設定している。	A	B	A	B
				○レセプト点検とは何か。実施する効果はあるのか。	病院から提出される点数表について、投薬や診療内容について精査を行う。医療費の抑制に繋がる。精査を行うのは年間2万3千枚、うち200枚程度が差し戻しとなる。県で実施率が定められている。				
				○医療費は22年度は良かったのか。	21年度→22年度の減少率は県下で2位だったが、20年度と比較すると増加しているので決して良くはない。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
住民課	保健衛生係	38	国民健康保険・老人医療対策	○医療費が少ないのは医者に掛らず我慢してしまう率が高いのでは。	そのあたりは個人内部の判断となってしまうため数値で把握することはできない。しかし、受診率は喚起を行ってきた成果とも考えられる。				
				○一人当たりの医療費は下がっているのに保険料が上がっているのが問題である。極端な上げ下げを行わないよう調整してほしい。	過去10年は保険料を低く抑えてきたため基金が少なくなってきたということもある。				
				○メタボに関して国や県からの指導はあるのか。	厚生省から指導要領が提示されておりそれに従って指導を行っている。				
産業建設課	振興係	39	農業の振興	○荒廃農地の割合はどうなっているか。	村内で100ha。里：山=4：6。 山間地は山林化を進めていくしかない。農地全体の1割以上に当たる。遊休農地との見分けが難しい。【別紙資料配布】	B	B	A	B
				○台風12・15号による被害は。	15号において2600万円の被害。				
				○農地の統計方法は。	昨年航空写真を使って全筆調査を行った。また踏査については毎年農業委員が行っている。				
				○農地の復元はどのように行っているのか。	山田地区有志が実施。栗の木を植樹した。				
				○豊丘の農産物の生産高はどのくらいか。	今は市田柿がトップ、金額では畜産が大きい。 感覚的には市田柿、リンゴ。JAの出荷額では全体で16億、柿6億、りんご3～4億。				
				○観光ともつながるが、村の説明をする時に村の特産物としてアピールするために押さえておくのが重要ではないか。	豊丘村はどんな農産物でも生産できる、という多様性をパンフレットにも掲載している。正確な数字は掴みづらいが研究していきたい。				
				○後継者育成に益々の支援を希望する。					
				○げんき農業支援事業の利用についての広報はどのように行っているか。	年度当初の広報、CATV等のお知らせをメインで行っている。				
				○げんき農業支援事業の周知のやり方に工夫をして、多くの人に利用してもらえるようにすべき。ゴミ一覧表のような農業用に利用可能な補助金をまとめた冊子等を作ってはどうか。	今年度中に作成を検討する。				
				○農業関係の税収はどうなっているか。	過去に調査したことはあるが、納税額としては少ないが、多面的機能を重視されたい。				
○TPPに関して、農地の大型化を国は目指しているようだが、豊丘村はどうか。	豊丘村のような中山間地の農業には適合しない。								
○げんき農業支援事業の消化率はどうか。どれほど有効に使われているか。	農家3戸以上で共同利用してもらうもののため、機械等の共同購入に使ってもらっている。原資は税金のため、個人への支援にしまわって良いのかという問題もある。柿剥き機は2人で申請できるが13件止まり。もっと伸びると思っていた。								

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
産業建設課	林務係	40	林業の振興	○樹種転換について	松くい虫は松に寄生するので松以外(杉・桧)へ植え替える。しかし、杉・桧は換価価値がなく、きのこの関係もあり村では積極的に推進はしない。また、松くい虫被害については一定の終息とみている。	B	B	A	A
				○防護柵について	今年度は村を3地区に分け検討中。南(伴野)は実施に向けた現地確認、測量、設計を行い、その後に地権者説明を予定している。中央(林・田村)は最近になって、来年度実施する予定を表明、来年に測量を行う。北(河野)は検討中。				
				○空中防除について	実施の可否について検討。村としてはもう十分であると認識している。飯下地区で行っているのは豊丘と、景観保護を目的とした飯田市天竜峡地区。				
				○個人的にも空中防除は廃止の方向でお願いしたい。					
				○林業に係る施策なので、間伐を大事にしてほしい。間伐面積が減ってしまっているのはなぜか。	個人所有の場所もあり個人負担も発生するためなかなか進まない。自費で植林をしたという場所もあり、個人が渋るケースも多い。				
				○H17年度の間伐面積は175haあったが理由は。	村有林が多いというのがあるが、この時は個人でも多くの方が間伐に賛同してくれた。				
産業建設課	振興係	41 42	商業の振興 工業の振興	○リフォーム補助事業(H23年度)の動向はどうか。	現在230件、3000万円程度。契約金額としては3億円となり、大きな経済効果があった。現在も毎日のように申請がある。小規模業者については営業の契機となる。今後、営業努力で仕事を取ってもらう体制づくりをしてほしい。	B	B	A	A
				○とても良い事業である。本社が豊丘にある事業者に限定しているのもよい。					
				○「撤退企業に対する行政からの支援が必要である」というものに該当した事例はあるか。誤解を招く表現であるので修正した方がよい。	そうならないように他の事業を盛り立て企業を存続させていく、という意味で記載している。				
				○買い物弱者への対策についても事業はあるか。	例として、パルムの買い物タクシーに対し村が待合所を設置したりした。今後も村内企業と協力していきたい。				
				○イイダベッドの問題について経過はどうなっているか。	H22.12.4倒産。H22年度分の地代が未払いとなっている。債権者である信金とも協力し、他の企業に入ってもらえるよう探したりしているが未定。9月に競売の申立てを行い、来年3月頃、競売となる予定。H23年度分の地代については信金が立替払いをする。				
				○横浜ゴムの誘致に関して。	企業サイドで努力してもらっているところである。現在本拠を置く地区からの撤退となるので、地元との解決待ち。企業からの正式発表があるまでは村は静観する。				
		43 44		○事務事業評価については、事業費がなくても事業に対しての評価をおこなうべき。だいちのやり方は良い。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
だいち	だいち	43 44	観光の振興 都市との交流 の進行	○観光農園、バスの往来が多く、観光客が多く来村しすばらしい。今年度の成果はどうか。	2週間で昨年度は7500人、今年度は4500人。今年は災害等もあり減少している。 団体から個人へつなげる施策に取り組む必要がある。もも狩りはリピーターが多い。	A	A	A	A
				○喬木のクラインガルテンはどうか。	最初は厳しかったようだが今は満杯。地域ぐるみで要望したこともあり、地域で積極的に取り組む姿勢がある。				
				○都市との交流だと、だいちのみではなく振興係でも対応するのか。実績はどうか。	・久我山での農産物販売(6・10・12月) だいち・振興係・加工組合で参加、来客数7000人、売上200万円以上 ・瀬戸市(春・秋)・刈谷ハイウェイオアシス・浜松歳末太市				
				○りんごオーナーは400本をクリアしているのか。	過去最高で860本あったが今は300本余。農家を辞められてしまう方もあったが、今は下げ止まりの状況。				
総務課	企画財政係	45	行財政運営の 効率化	○交付税における東日本大震災の影響はどうか。	今のところ不明。	A	B	A	B
				○指標の経常収支比率が良かった要因は何か。	交付金等をうまく利用しながら事業を行えたこと。				
				○職員が、国・券の補助金について良く学び取り入れていけることが重要。他町村に負けない情報収集を目指してほしい。					
				○土木系の事業では村の負担を少なくして工事をやらせてもらった。大変すばらしい。					
				○書類・通知をしっかりと読んでいただき、活用できるものをしっかりと活用してほしい。					
				○公会計についてはどうなっているか。	村は財務4表は公開しているが、データ化まではされていない。現在、一般会計について取り組み始めているところだが、量が膨大であるため直ぐには難しい。				
				○決算数値は、H22年度においては良かったが、外的要因(交付税等)により良くなったものと思われる。今後は引締めを行い、健全な財政を保ってほしい。					
総務課	企画財政係	46	電子行政の推 進	○HPの更新頻度を上げるように。	村長に進言しておく。 CATVインターネット契約者は380件。一般事業者を介した接続については把握できない。 22年度段階では、上水道の加入・廃止申請の1事業。申請件数は0件であった。23年度ではふるさと納税が電子申請で行えるようになり、利用者は増大している。	A	A	A	B
				○村長のブログについて、もう少し砕けた表現をしても良いと思う。少し硬いイメージがある。					
				○村内でHPが見れる環境はどの程度あるのか。					
				○電子申請の件数はどの程度か。					
		47		○行政評価のやり方に不満がある。県や国が行っている事業仕訳のようなやり方が良いのではないか。					

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会 進捗 評価	今後の施策 の方向性	
								成果	コスト
総務課	企画財政係	47	行政改革の推進と職員資質の向上	○正規職員数の目標値について、減少した分は臨時や嘱託になってしまい、全体の職員数は変わらないのではないか。コスト削減には効果があると思われるが。	正規職員数の目標値58という数字は4年前の数字。当時は官から民へという流れがあったが、現状では厳しい。次回計画では改めて設定したい。 嘱託職員数は現在23名。保育所が多いが、利用状況に合わせて変動するため一定に定めるのは困難である。	A	A	A	B
				○職員研修はどのように行われているか。	新卒者は、初年度に年間4日間の基礎的な研修を行う。以降は役職に応じて、県等が主催する研修会に派遣する。他に、全職員が集まって受ける研修が月1回、県に1年間出向する研修が年間1名。				
				○行政評価が成果として出ているか、成果があったか。	行政費用化では、いかに新年度予算に反映させていくかが課題。担当課で次の年度に生かしているかどうかは半数程度か。 やり方を含め、行政評価を活かしていく方法を検討する。				
				○現在実行している事業があるので、それを基に評価していくのが正当と考える。外部の人間がいきなり行政について聞かれても判断できない、元職員など事業のことがある程度わかる人に入ってもらうなど、人選についても一考してほしい。					
				○研職員研修の費用がとても安いがこれはどういうことか。	研修費用は外部の講師を依頼した時に支払った講師謝礼。それ以外の研修は、北部事務組合主催の事業や、役場内部の職員に講師を依頼する等している。				
				○豊丘村の住民とのつながり、要望等を、村民触れ合う中で積極的に吸収し、資質の向上を図ってほしい。					
				○職員が地域の行事・集まりに参加し、地域の意見に振れる機会を持つことが重要である。					
総務課	税務係	48	村税の徴収方法の合理化	○滞納繰越の収納率の目標が60%であるのはどういうことか。 挑戦目標としては60%は低いのではないかと。21-22年度で収納率が5%上昇していることもあり、直ぐに達成できてしまう数値を目標に掲げるのはいかがなものか。	滞繰額は約770万円。100%が最終的な目標ではあるが、滞繰分は金額も大きく長年に渡るもののため、一年間で達成できるものではない。少しずつ徴収していく。	A	A	A	B
				○集合税の未収分について額はどれ程か。 徴収率で表示されるより、金額で明示してもらった方が掴みやすい。	住民税160万円、固定資産税600万円、国保税180万円。				
				○収納率について、近隣と比較してどうか。下伊那全体ではどうか。	県下では率としては上位から8番目に良い数字。下伊那全体で見ると、下伊那自体が徴収率が高いため、県順位と同程度。				
				○徴収率の低下は人口と比例するか。	その通りと考える。				
				○請求漏れ、過請求等はあるか。	当村では今のところなし。				

担当課	担当係	施策番号	施策名	意見等	委員会の際の村からの回答	施策の方向性	委員会進捗評価	今後の施策の方向性	
								成果	コスト
総務課	税務係	48	村税の徴収方法の合理化	○大口滞納者、遠隔地滞納者の原因はどのようなものか。	大口滞納者は、課税額自体が大きいため未納となると一気に滞納額が発生する。遠隔地滞納者は、転出等で滞納者が村外に転居した場合等、連絡が取り辛くなるものである。				
				○滞納者は地元でも負担金等の滞納が発生している場合があり、村の対策と歩調を合わせて協力できれば良いと考える。	税は法により滞納整理処分が可能だが、水道料や給食費、負担金などはそのような手段がないため難しいと思われる。				
				○個人や法人が破産・倒産した場合の処分はどうか。	管財人がついて財産処分が行われれば配当もあるだろうが、全てを回収できるわけではない。最終の納付から5年音沙汰がない場合は不能欠損扱いとなり、滞納繰越額から落とすことになる。				
総務課	企画財政係	49	広域行政の推進	○義務を果たすことで互いに信頼が生まれる。今後も各町村で協力をしていってほしい。愛ネットについても、5町村で協力しており、今後も頑張って推進していってほしい。		A	A	A	B
				○北部事務組合の共同事業数23件はどのような内訳か。	税務や企画など各事業毎のワーキンググループと、そこから発案された協同でできる事務事業を計上している。				
				○リニアに関しては広域での事業になると思われるが、村としてのビジョンやスタンスを明示する予定はあるか。	早いうちに作りたいが、今のところは兼任業務として考えている。				